2026
5
No.756

國學院大學学報

国学院大学　令和8年5月20日(水)　定期号(毎月20日発行)　1部20円
[発行] 国学院大学　[編集] 総合企画部広報課　〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10-28　[電話] 03(5466)0130　[FAX] 03(5466)0528

「曙の雨」
しろぐくと
きだはし濡れて居たりけり。
身延のやまのあけぼの、
雨
『倭をぐな』
釈　迢空

祭　儀　■**月次祭**　6月1日(月)午前10時　神殿

新任学部長に聞く

観光まちづくり学部

学部長・梅川智也

「個性創造型」の人材を育てる

令和4(2022)年の開設以来、観光まちづくり学部をけん引してきた西村幸夫前学部長に代わり、4月から新学部長に就任した梅川智也教授。「西村先生の意思を大切に継承しながら、学部の歩みをさらに深化させていきたい」と抱負を語る。観光まちづくり学部は、観光を一過性のにぎわいづくりではなく、地域の未来を構想する営みとして位置づけているという。

梅川学部長は、地域の宝や資源に目を向け、その個性を生かして未来を構想する、そうした個性創造型の学びを重視する姿勢を示す。日本全国に同学部の院友(卒業生)のネットワークが広がれば、「日本の地方はもっと魅力ある地域になるはず」と未来を見据えた。

4面に続く

神殿鎮座記念祭を斎行

学校法人国学院大学は5月1日午前11時から渋谷キャンパスの神殿で96回目となる神殿鎮座記念祭(斎主＝星野光樹・神道文化学部准教授、神殿奉斎員)を斎行し、佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ法人傘下諸学校の役教職員、学生らが参列した。

祭典は、斎主、教職員の祭儀員、瑞玉会学生が祭員として奉仕し、同会学生による浦安の舞も奉納された。

祭典後に有栖川宮記念ホールで行われた直会であいさつに立った佐柳理事長は120周年の事業であった渋谷キャンパス再開発を振り返り、「再開発では、全ての人に開かれた安全・安心で明るいキャンパスづくりを目指した。その中心となった神殿が、これからも学生・教職員の精神的なよりどころであり続けてほしい」と述べた。

「岩手県大槌町の林野火災」で被災された皆さまへ

「岩手県大槌町の林野火災」により被災された皆さまに衷心よりお見舞い申し上げます。

被災された学生やそのご家族の皆さまをはじめ、被災地の皆さまの生活が一日も早く平常に復するよう、心よりお祈り申し上げます。

令和8年5月20日　国学院大学

みはるかすもの

4月上旬、宇宙開発の歴史に新たな一頁が刻まれた。4人の宇宙飛行士が、人類史上最も遠い宇宙空間へと到達したのである。米国が主導する月探査プロジェクト「アルテミス計画」は、欧州宇宙機関やカナダ宇宙庁、日本の宇宙航空研究開発機構(JAXA)も参加する国際的な挑戦だ▼しかし、この成果の陰には幾度もの挫折があった。新型ロケットのエンジントラブル、宇宙船の再突入シールドの不具合、度重なる計画変更など、時には中止の声すら上がった。その度に、エンジニアをはじめとする多くのスタッフが問題を一つずつ洗い出し、解決の糸口を見つけ出してきた。国籍も立場も異なる人々が知恵を寄せ合い、今回の偉業へとつなげたことを思うと、人間の底力には驚かされる▼とはいえ、アルテミス計画はまだ道半ばだ。来年には、地球低軌道上で宇宙船と月着陸船のランデブーやドッキングを試す技術実証ミッションが予定されている。そして再来年には、半世紀ぶりとなる有人の月面着陸に挑む。無人ミッションから始まり、有人飛行、技術実証、そして月面へ、小さな成功を積み重ねながら、最終目標へと確実に歩みを進めている▼華やかな成果に目を奪われがちな宇宙開発だが、その実態は地道な積み重ねの連続である。このことは、私たちの仕事や学びにも重なる。アルテミスⅡのニュースは、目の前にある一歩を大切にすること、そして同じ目標に向かう仲間という存在の心強さを静かに教えてくれる。

主な内容　**2面**／第5回 Bloomingレクチャー　**3面**／「指定寄付金」ご芳名
4・5面／新任学部長に聞く　「個性創造型」の人材を育てる　**6面**／アカデミック・スキルズ講座　学修をサポート　**7面**／インフォダイジェスト

最終面から K：DNA　**Ⅰ面**／柔道部　吉村選手　トルコジュニア国際柔道大会で優勝

第5回Bloomingレクチャー
高尾美穂氏「周囲の人にも頼りながら『軽やかに生きる』ことが大切」

人間開発学部地域ヘルスプロモーションセンターが主催する第5回Bloomingレクチャーが4月11日、たまプラーザキャンパス講堂での対面実施とライブ配信のハイブリッド方式で開催され、約620人が参加した。この催しは「達人から学ぶ人間開発～自分を拓く、未来を拓く～」をテーマとして毎年春に開催しており、今回は女性のための統合ヘルスクリニック「イーク表参道」副院長の高尾美穂氏を講師に迎え「人生100年時代を軽やかに生きるために」と題して講演が行われた＝**写真**。

高尾氏は性別による身体的差異が、けがや病気の発症リスクの違いにつながることを指摘。とりわけ女性の身体的特徴について詳しく説明し、生涯にわたって健やかに過ごすためには「予防医学」の視点を持つことが重要だと述べた。

また、人口減少社会において女性の社会進出が期待される一方、出産・育児・介護・治療といったライフイベントと仕事の両立は、女性個人の問題ではなく「社会全体の課題」であると強調し、「女性が何かをあきらめるのではなく、男女双方が仕事とライフイベントが両立できる社会を目指していくことが、これからの日本には必要である」と語った。

さらに「軽やかに生きる」ためには、自身の力だけではなく、他者やテクノロジー、異なる世代とのコミュニケーションを充実させ、「どうにかなる」という気持ちを持って過ごすことが自分らしく生きる鍵になると述べ、講演を締めくくった。

講演後には、高尾氏と林貢一郎・同センター長（人間開発学部教授）が登壇し、対談形式で質疑応答の時間が設けられた。「これからの人生の楽しみ方」について質問を受けた高尾氏は「『80歳になっても背筋を伸ばして歩きたい』など具体的な憧れのイメージを持つことが大切。未来を想像して、今の選択肢を選び取っていくことが、いい人生を過ごすことにつながる」とアドバイスした。講演終了後には抽選会が行われ、当選者には高尾氏のサイン入り著書やサイン色紙が贈られた。

博物館企画展
故佐野光一教授のコレクションを展示

◆企画展「和の硯－SUZURI－」

国学院大学博物館で3月7日から5月10日まで開催されていた企画展「和の硯－SUZURI－」。故佐野光一教授が収集した1500面に及ぶコレクションの中から、近世以降現代までに国内で制作された200面もの和硯が展示された。平安時代から伝わるとされる金櫻神社（山梨県甲府市）所蔵の「猿面硯（えんめんけん）」＝**写真左**＝と、この硯を模して昭和5年に同県の硯製作者、雨宮靜軒氏が手がけ、故佐野教授所蔵の硯が並べて展示された。

また、雨宮靜軒氏の孫にあたる硯製作者、雨端硯本舗の雨宮弥太郎氏による、原石から完成まで7段階の硯の製作工程も展示されるなど、和硯の奥深さが伝わる企画展となった。

◆『書』体験ワークショップ

同企画展の関連イベントとして「『書』体験ワークショップ」が4月25日に開催され、約20人が参加した＝**写真下**。

今回のワークショップは、企画展を監修した日野楠雄（なんゆう）・本学兼任講師（文房四宝研究）と横倉佳男・同兼任講師を招いて行われ、展示でも紹介されているさまざまな産地の和硯を使って書を体験するもの。まず日野講師が、硯と墨について解説。墨は硯で削られているのではなく、墨をすることで原料の膠（にかわ）が溶けて煤（すす）の粒子がほぐれ、それが墨液となっているとし、「墨をするのは繊細な作業。すり方やする人によっても墨の仕上がりは異なる」と説明した。

続いて、参加者たちは産地や材質、形状の異なる10種の硯それぞれを使って墨をすり、そのすり心地を比較した。その後、参加者がすった墨と、その墨を水で薄めた墨の2種類が用意され、参加者たちは実際に筆をとり、墨の濃淡や、3種の半紙に書いた際の滲（にじ）み具合などを比べたり、白紙のうちわへ思い思いの文字をしたためるなどして楽しんだ。参加者からは「硯ごとに、墨をする際の感触や音も全く違い、その変化が面白かった」、「今回体験した10種以外にも、企画展で展示されていた硯で墨をすってみたらどのようになるのかが気になる」といった声が聞かれた。ワークショップ中はさまざまな質問が飛び交い、会場は終始活気にあふれていた。

学校法人花巻学院との包括連携協定

学校法人国学院大学（理事長・佐柳正三）と学校法人花巻学院（理事長・小田島順造）は4月15日、相互に協力し、双方の今後の発展に寄与することを目的に包括的連携に関する協定を締結した。締結式は同日に花巻東高等学校で行われ、佐柳理事長、小田島理事長をはじめ、双方の関係者が出席した。

◆**連携・協力事項**▷国学院大学専任教員による学校法人花巻学院への出張講義に関する事項▷学校法人花巻学院に在籍する生徒の国学院大学講義の聴講と単位認定に関する事項▷学校法人国学院大学傘下高等学校の教員と学校法人花巻学院の教員との交流に関する事項▷本協定に基づいた学生募集に関する事項▷学校法人花巻学院の設置する高等学校における国学院大学学生の教育実習、インターンシップの受け入れ、及び教員採用に対する協力に関する事項▷その他、両法人にとって有益な事項

南種子町との相互連携および協力に関する協定の締結

国学院大学（学長・針本正行）と鹿児島県熊毛郡南種子町（町長・小園裕康）は、5月15日に観光まちづくりを通じた町民生活の向上、教育・研究の推進、及び地域社会の発展と人材育成を推進することを目的として、相互連携及び協力に関する基本協定を締結した。期間は令和8年5月15日～令和13年3月31日。

◆**連携・協力事項**▷地域の活性化に関する事項▷地域社会や地域の歴史・文化の振興、発展に関する事項▷地域経済、地域産業の振興、発展に関する事項▷資源管理や環境への取組に関する事項▷人材育成に関する事項▷その他、知見等や知的財産等を活かし、連携及び協力することができる事項

学校法人国学院大学後援
横浜都市発展記念館企画展「戦争の記憶―横浜と軍隊の120年」

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団の横浜都市発展記念館で企画展「戦争の記憶―横浜と軍隊の120年」が1月24日から4月12日まで開催された。同展は黒船来航からベトナム戦争終結までの間に横浜に刻まれた戦争の記憶を、後世に伝えることを目的に同財団が主催し、学校法人国学院大学などが後援した。本学研究開発推進機構所蔵の写真資料も展示され、たまプラーザキャンパスのグラウンドが陸軍・溝の口演習場の射撃訓練地だった当時の様子を伝えた。

岡野弘彦名誉教授　逝去

文化勲章受章を祝う会での岡野名誉教授（令和3年12月）

学校法人国学院大学参与で、国学院大学名誉教授の岡野弘彦氏が4月24日に逝去。101歳。葬儀は家族葬で執り行われた。

岡野氏は大正13年生まれ。国学院大学予科在学中に召集され、戦後復学。昭和23年に本学大学部国文学科を卒業した。本学講師、助教授を経て、44年に教授となり、文学部長や折口博士記念古代研究所所長などを歴任。平成3年に名誉教授となった。7年から19年3月まで国学院大学栃木短期大学学長も務めた。復学後、本学教授であった折口信夫に師事し、「鳥船社」に参加。昭和48年に『滄浪歌』（角川書店、1972年）で迢空賞を受賞。54年から宮中歌会始の選者となり、58年より宮内庁御用掛として皇族方の和歌の相談役を務めた。平成25年に文化功労者、令和3年に文化勲章を受章。歌集に、『冬の家族』（角川書店、1967年）、『海のまほろば』（牧羊社、1978年）、『天の鶴群』（不識書院、1987年）、『バグダッド燃ゆ』（砂子屋書房、2006年）、著作には第14回和辻哲郎文化賞受賞の『折口信夫伝　その思想と学問』（中央公論社、2000年）などがある。

「指定寄付金」ご芳名

学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。

令和7年10月から8年3月まで、**左表**の通り、多方面の方々からご寄付を賜りました。ここに、ご芳名を掲載し、重ねて深甚の謝意を表します。

本法人に対するご寄付は、専用用紙による申し込みとインターネット上でクレジットカード決済による申し込みが可能です。詳細は**7面**をご参照ください。

（総務部総務課）

令和7年度　指定寄付者一覧（敬称略）

令和7年10月1日～令和8年3月31日（単位：円）

寄付者	寄付目的	金額	収納日
松下　明良	学生・生徒等の活動支援（陸上競技部）	10,000	令和7年10月15日
清水　理江子	学生・生徒等の奨学基金	5,000	令和7年10月22日
		5,000	令和7年11月25日
		5,000	令和7年12月22日
		5,000	令和8年 2月24日
		5,000	令和8年 3月24日
關橋　淳	学生・生徒等の活動支援（硬式野球部）	2,000	令和7年10月22日
		2,000	令和7年11月25日
		2,500	令和7年12月22日
		2,500	令和8年 2月24日
		2,500	令和8年 3月24日
田中　郁子	教育・研究振興支援	2,000	令和7年10月22日
		2,000	令和7年11月25日
		2,000	令和7年12月22日
		2,000	令和8年 2月24日
		2,000	令和8年 3月24日
西ノ宮株式会社代表取締役　堀越　隆弘	学生・生徒等の奨学基金	20,000	令和7年10月23日
株式会社トップコート代表取締役　植松　正	学生・生徒等の奨学基金	1,000,000	令和7年10月27日
	学生・生徒等の奨学基金（久我山中学・高等学校）	500,000	令和7年10月27日
匿名	学生・生徒等の活動支援（久我山中学・高等学校）	5,000	令和7年11月25日
		5,000	令和7年11月25日
		5,000	令和7年11月25日
		5,000	令和8年 1月16日
		5,000	令和8年 2月10日
		5,000	令和8年 3月26日
謝　施遥	教育・研究振興支援	1,000	令和7年11月25日
矢澤　敏司	学生・生徒等の奨学基金	10,000	令和7年11月26日
国学院大学北海道短期大学部家主連絡協議会会長　吉田　和幸	学生・生徒等の活動支援（陸上競技部）	50,000	令和7年11月26日
小山　東夫	教育・研究振興支援	20,000	令和7年12月 2日
松浦　傳	学生・生徒等の奨学基金	50,000	令和7年12月 3日
小林　静子	学生・生徒等の活動支援	10,000	令和7年12月 3日
齋藤　美香	学生・生徒等の活動支援（ソフトテニス部）	10,000	令和7年12月 8日
匿名	学生・生徒等の奨学基金	20,000	令和7年12月11日
株式会社KOJIMASPORTS代表取締役　小島　光顕	施設・設備充実支援（相模原グラウンド営繕）	652,000	令和7年12月15日
木窓会（経済学部木村太郎ゼミナールOB・OG会）	学生・生徒等の奨学基金	50,000	令和7年12月18日
飯田　愛子	教育・研究振興支援	10,000	令和7年12月22日
高山　充	教育・研究振興支援	30,000	令和7年12月22日
田中　広紀	施設・設備充実支援	50,000	令和7年12月22日
体育連合会96期同期生一同	学生・生徒等の活動支援（体育連合会各部会）	18,129	令和7年12月22日
髙橋　一行	施設・設備充実支援（校地等拡充）	200,000	令和7年12月25日
匿名	学生・生徒等の活動支援	30,000	令和8年 1月10日
荒井　康一郎	学生・生徒等の活動支援（バスケットボール部）	5,000	令和8年 1月13日
日下部　香苗	学生・生徒等の活動支援（陸上競技部）	10,000	令和8年 1月22日
伏見　真彦	学生・生徒等の活動支援（全學應援團）	50,000	令和8年 1月22日
横田　裕孝	学生・生徒等の活動支援（陸上競技部）	10,000	令和8年 1月22日
鹿島建設株式会社安全環境部部長　加藤　昌二	教育・研究振興支援（神道文化学部）	100,000	令和8年 1月30日
神山　憲一	学生・生徒等の活動支援（陸上競技部）	30,000	令和8年 2月 9日
近藤　あゆみ	学生・生徒等の活動支援（陸上競技部）	50,000	令和8年 2月 9日
株式会社アルク代表取締役　實川　利光	学生・生徒等の奨学基金	60,000	令和8年 2月20日
舘岡　裕	施設・設備充実支援	10,000	令和8年 2月24日
日新石油株式会社代表取締役　鈴木　信人	学生・生徒等の活動支援（自動車部）	1,500,000	令和8年 2月27日
峯村　一幸	学生・生徒等の活動支援（陸上競技部）	10,000	令和8年 3月 9日
国学院大学院友神職会東京支部会長　清水　祥彦	施設・設備充実支援（博物館展示ケース修繕・購入）	3,953,400	令和8年 3月13日
東京都神社庁庁長　松山　文彦	施設・設備充実支援（神職養成の事務機器等購入費）	350,000	令和8年 3月18日
株式会社エデュース代表取締役社長　松本　雄一郎	学生・生徒等の奨学基金	1,400,000	令和8年 3月19日
国学院大学院友神職会会長　松山　文彦	教育・研究振興支援（研究開発推進機構 学術研究資金、神道文化学部活動支援資金）	9,500,000	令和8年 3月23日
勝村　渓太	学生・生徒等の活動支援（森木会）	60,000	令和8年 3月24日
大村　雅紀	施設・設備充実支援	10,000	令和8年 3月24日
株式会社小林自動車代表取締役社長　小林　裕一郎	学生・生徒等の活動支援（柔道部）	1,000,000	令和8年 3月31日

学問ノ道

【経済学部60周年スペシャル】

経済の歴史を知り、今そして未来に活かす

私の研究分野は、日本経済史・日本経営史です。具体的には、近代から現代にかけての時期における日本経済の動向や産業、企業、企業家について、実証的に研究を積み上げています。研究対象は、鉄道史、電力業史、織物業史、財閥史、企業家史と多岐にわたりますが、日本の近代化に産業・企業・企業家がどのように関わっていたのかについて実証的に追うなかで、自然と広がってきたものです。

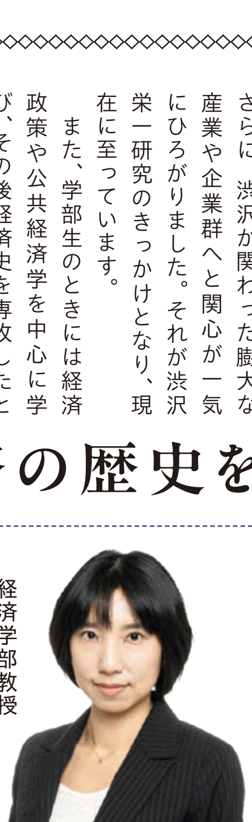
スタートは鉄道史研究からです。研究の原点は、高校時代に通学で利用した鉄道が、実は明治期には日本の産業化を輸送面で支えた重要な産業鉄道であったということを知ったことにあります。また、現在の新1万円札の肖像である渋沢栄一も主要な研究対象の一つです。当初研究をしていた鉄道会社の発起時の大株主に渋沢の名前があったことから、詳しく調べたところその人的ネットワークを紐解くこととなり、さらに、渋沢が関わった膨大な産業や企業群へと関心が一気にひろがりました。それが渋沢栄一研究のきっかけとなり、現在に至っています。

また、学部生のときには経済政策や公共経済学を中心に学び、その後経済史を専攻したという経緯もあり、経済史研究者ではありますが経済学や経営学といった、「今」を扱う研究分野にも強い関心を抱いています。

経済史・経営史を学ぶ面白さは様々にありますが、単に過去を知るだけでなく、現在と照らし合わせて類似点や相違点を探り、歴史から教訓を得て次代への指針を得られる点は大きな醍醐味です。よく「歴史は繰り返す」と言われますが、研究を通じてそうした場面に遭遇することは少なくありません。

経済史研究と現代社会の接点は、一見薄いと思われるかもしれません。しかし、私のような経済史研究者が企業や団体で講演・研修を行う機会もあります。例えば、渋沢栄一の事業理念である「道徳経済合一説」は、道徳（倫理）と経済（利益）の両立を目指す考え方ですが、これは現代のCSRやSDGsの動きと本質的に通じ合っています。だからこそ、渋沢の理念を現代の事業を推進するための指針として学び直す意義があるのです。

歴史研究から得られた知見が、結果として企業経営や経済社会への貢献につながる。「自身の研究が誰かの役に立っている」という実感を得られることは、研究者としてこの上ない喜びです。



経済学部教授
杉山里枝

すぎやま・りえ
博士（経済学）。専門は日本経済史・経営史。平成28年より本学准教授、30年より現職。主な著書に、『戦前期日本の地方企業』（日本経済評論社、2013年）、『渋沢栄一がめざした「地域」の持続的成長』（共著、ミネルヴァ書房、2023年）などがある。

経済学部は令和8年に60周年を迎えました。教員たちの教育・研究の歩みをお伝えします。

新任 学部長に聞く

観光まちづくり学部

学部長・梅川智也

「個性創造型」の人材を育てる

うめかわ・ともや
社会工学士(工学関係)。専門は観光地経営、観光まちづくり、観光政策、観光計画。技術士(都市及び地方計画)。旅行・観光分野のシンクタンク(公財)日本交通公社で約40年にわたって日本各地の観光地の活性化や観光計画の策定などに取り組む。立教大学観光学部特任教授などを経て令和2年より本学新学部設置準備室、観光まちづくり学部が開設された4年より同学部教授。

Faculty of Tourism and Community Development

地域に学び、地域の個性を伸ばす「観光まちづくり」

本学部では「観光」を一過性のにぎわいづくりではなく、「地域」を軸にその未来を構想する営みとして位置づけている。「観光」と「まちづくり」を別個の領域とみなすのではなく、両者の相互関係の中で地域のあり方を問い直すことが重要であると考えるからである。そのためには、歴史、文化、自然をはじめ、観光に関する基礎的な知識のほか、語学や法律、金融、デザインなど幅広い知識と技術を身に付けることが必要である。

しばしば「住んでよし、訪れてよし」といわれるが、その前提となるのは、地域に暮らす人々の生活基盤が損なわれることなく、安心して暮らし続けられる状態を保てるということ。外からの来訪者を呼び込むことのみを目標とするのではなく、まず「住んでよい」地域をいかに形成するか。その過程の中でこそ、観光の意味や地域の価値も再定義されると考えている。本学部が目指すのは、そのような視座から地域の未来に関わることのできる人材の育成である。

本学部では、「地域を見つめ、地域を動かす」をモットーに、①地域の個性をみつけ、みがく②地域の多様なつながりをつくり、生かす③地域の暮らしを支え、豊かにする④地域の未来をつくる人材と仕組みを育てる―を観光まちづくりの4つの柱として設定している。学生が地域に入り、住民の方々の声を交えて議論し、真摯(しん)に聞き、共に汗をかきながら構想を形にしていく実地学習を積極的に取り入れており、これは教室での知識の習得にとどまらず、地域社会そのものを学びの現場とすることで「観光まちづくり」を理論と実践の両方から学び捉えることを意図としている。

例えば、2年次に履修する「観光まちづくり演習Ⅱ」では神奈川県鎌倉市を対象に、学生が少人数のチームで地域分析を行う。地域の歴史や景観などを学んだうえで、その特性を踏まえてテーマを設定する。海に近い立地条件から津波災害を取り上げる班もあれば、地元銘菓に着目する班、オーバーツーリズムについて考察する班もある。学生はそれぞれの課題について、場合によっては地元住民への聞き取りも取り入れながら、分析を重ねたうえで地域課題の構造を1枚のポスターにまとめて発表する。

続く3年次の「演習Ⅲ」になると、東京都の谷中・神田、神奈川県の横浜・湯河原・相模原の5地域を舞台に、より具体的な構想提案に取り組む。大都市もあれば、温泉地や中山間地域もある。学生たちは、それぞれの地域に出掛けて、その土地で暮らす人々の営みなどを通して地域理解を深めていく。人と交わりながら進めるのが「まちづくり」。地域住民も、学生にとってこの上ない先生になる。「まちづくり」には数学のように正解が存在するものではない。私たち教員もまた、学生と共に学ぶことになる。

地域分析を行う際、学生にはいつも「地域の宝や資源を大切に」と話している。課題解決のため、つい問題に視点が行きがちだが、それだけでは将来像は描けない。私たちがすることは地域の魅力や個性を見いだし、そこから可能性を構想すること。本学部が目指すのは「課題解決型」というよりも、地域の価値を創出していく営みとしての「個性創造型」の学問である。

私のゼミの1期生の卒業研究は、温泉まんじゅうや旅館の女将(おかみ)、共同湯、クラフトビール、花火大会、スリープツーリズム、さらには「城泊」など実に個性的なテーマが並んだ。「城泊」は、スペインの古城などを改装した「パラドール」という国営ホテルに似た観光形態を参考に、歴史的建造物の保存と観光収益の両立を検討する研究である。観光は理念や補助金のみで成立するものではない。明確なビジョンを掲げ、それを担う組織が存在し、持続可能な財源が確保されてこそ、地域は自立的に歩み続けることができる。こうした「ビジョン・組織・財源」の三位一体を、私たちは教育と研究の中でも大切にしていきたいと考えている。

必然だった観光まちづくり学部の誕生 神社と地域づくりの親和性

卒業生の進路は、ホテル業や旅行業、鉄道系といった観光関連分野のみならず、一般企業にも広がっている。こうした動向は、多くの企業が観光に限らず地域との関係性を重視する傾向にあることと関係している。本学部で培われる力は、特定の業界に限定されるものではない。将来的に地域とつながる業務に携わる可能性は、多様な分野において十分に考えられる。

本学部には学芸員資格取得課程も設けられており、その資格を生かして、鹿児島県南種子町で学芸員となった卒業生もいる。地域文化の保存と発信に携わるこうした進路も、「観光まちづくり」の実践の一形態といえる。

地域には地域活性化を担う潜在力を備えた企業や団体が多く存在している。今後は教員陣が有するネットワークを活用し、地域で活躍する人材の育成をさらに推進していきたいと考えている。例えば、経営的な視点から観光まちづくりの司令塔となる役割を果たす組織・DMO(観光地域づくり法人)。本学部の卒業生がこうした組織に参画し、各地で実践を重ねれば、全国的なネットワークが形成される可能性がある。その縦横の連携を生かし、日本の地域社会をより良くしていきたい。そんな夢も抱いている。

本学は明治15(1882)年に創設された皇典講究所を母体としており、大正9(1920)年にわが国で初めて認可された私立大学の一つで、神道文化学部を擁し、神職として地域に根ざして活動する卒業生や修了生も多い。神社は集落ごとにあり、古くから多くの人が集うお祭りなど地域社会の中心的役割を担ってきた歴史を踏まえれば、地域文化と観光は、神社と密接につながっていると考えられ、親和性がとても高いと感じている。本学に「観光まちづくり学部」という新しい学問分野が生まれたのも一定の歴史的連続性が認められるように思う。今後は神道文化学部をはじめ他学部とも連携しながら地域課題に協働して取り組む体制を構築していければと考えている。

観光まちづくり学部

「地域を見つめ　地域を動かす」をキーワードに文系・理系の垣根を越え、地域を支える学問を理論と実践の両面から学ぶ

1年次
導入期
基本的な学習法、地域の見方や調査法を知る

1年次

履修科目
- 社会学概論
- まちづくりと観光
- 社会調査法入門
- 地域資源論
- 公共政策概論
- 観光学概論

等

演習科目
導入ゼミナール
基礎ゼミナールA

2年次
基礎期
地域の特性や課題を把握・分析する

2年次

履修科目
- 都市とメディアの社会学
- 都市建築史
- 地方自治概論
- 観光政策・計画論
- パブリックデザイン(地域と公共空間)

等

演習科目
基礎ゼミナールB

演習科目
観光まちづくり演習Ⅰ
地域の空間的、環境的な側面に焦点を当て、地域の資源や特性・課題を客観的に把握するための調査手法を学修

ポスター発表(2年次前期)

演習科目
観光まちづくり演習Ⅱ
「観光まちづくり演習Ⅰ」で修得した調査手法を活用し、具体的な地域を対象とした総合的な分析を通じて対象地域の特性と課題を実践的に把握

フィールドワーク(2年次後期)

3・4年次
発展期
地域の構想・提案を作る

3年次

履修科目
- コミュニティ論
- 世界遺産論
- まちづくり論
- アートと地域振興
- 観光地経営論
- 世界の観光政策

等

演習科目
専門ゼミナール

演習科目
観光まちづくり演習Ⅲ
具体的な地域を対象としてグループで地域の課題解決につながる観光まちづくりの構想・提案を立案

現地発表会(相模原スタジオ)(3年次)

最終発表会(3年次)

学修の集大成としての卒業研究

4年次

4年間の学びを通して身に付く力を生かして、さまざまな領域で活躍

卒業後の主な進路
- 運輸
- 国家公務員・地方公務員
- 観光業
- 情報・調査

幅広く総合的な学びと、志を同じくする教員や同窓生との活発なコミュニケーションを通して活躍の場を広げる
- 令和8年　卒業生組織　「院友観まち会」発足

演習科目
卒業研究

アカデミック・スキルズ講座 学修をサポート

令和8年度のアカデミック・スキルズ講座の第3弾と第4弾が4月22日から5月12日にかけて開催された。この講座は、リポートやプレゼンテーションなど大学での学修に対する不安解消のために年に複数回開催されており、第3弾、第4弾は教育開発推進機構の内村慶士助教が講師を務めた。

第3弾は「大学生のうちに身につけたい！Notionではじめるデータ・タスク管理」をテーマに、デジタルワークスペースアプリ「Notion」の基礎知識を説明する「つかい方編」として動画配信形式で行われた。

第4弾は、第3弾に続く「つくり方編」として、4月22日と27日に渋谷キャンパスで、5月12日にたまプラーザキャンパスで開催された。22日は内村助教が、大学生活で「Notion」をどのように活用するかについてポイントを解説。参加した学生たちは実際にアプリを操作し、サンプルデータを用いて実習形式で活用方法を学んだ。参加者からは、「実際に操作してみて、テンプレート機能を活用することで情報の整理がしやすくなることが分かった。今後積極的に活用したい」といった声が聞かれた。

国際交流歓迎会 交換留学生らと本学学生が交流

国学院大学で学ぶ留学生と日本人学生らの学内国際交流イベント「国際交流歓迎会(Welcome Party)」が留学生の歓迎会として4月24日に渋谷キャンパスで開催された。4月から留学期間を開始した留学生16人と、留学生との国際交流促進や生活のサポートを担うK-STEPアシスタントをはじめとした本学学生、教職員、留学生を支援するフレンドシップファミリーなど約150人が交流を深めた。

初めに星野靖二・国際交流推進委員(研究開発推進機構教授)が「勉強はもちろん、交流を深めたり、さまざまなことを経験したりすることも大切。日本での滞在を楽しんでほしい」と歓迎の言葉を述べた。

続いて、今年から留学期間を開始する学部交換留学生、大学院交換留学生、K-STEP交換留学生らがそれぞれ日本語であいさつをし、自分の出身地や趣味について話すと、参加した学生たちから歓声と盛大な拍手が送られた。

その後は「I know a person who…(私はこんな人を見つけました)」と題し、自己紹介をしながら配布された用紙に書かれた趣味や特技などの項目にあてはまる人を探していくゲームが行われた。「韓国料理の名前を3つ知っている人」「小籠包が好きな人」など留学生の出身地に関係する項目もあり、お互いに質問を交わしながら交流を楽しんでいた。

今後は、隔週金曜日に国際交流イベント「International Coffee Hour」が開催される予定。

若木育成会「支部の集い」開催日程一覧

支部名	開催日	会場	支部名	開催日	会場
北海道道北	6/6(土)	旭川トーヨーホテル	愛知県	7/11(土)	TKPガーデンシティPREMIUM名古屋駅前
北海道道東	7/25(土)	十勝ガーデンズホテル	静岡県東部	6/13(土)	三島商工会議所
北海道道央	5/30(土)	北海道神宮頓宮	静岡県中部	6/14(日)	ホテルグランヒルズ静岡
北海道道南	6/7(日)	花びしホテル	静岡県西部	6/20(土)	ホテルクラウンパレス浜松
青森県	6/6(土)	ウェディングプラザ アラスカ	三重県	7/12(日)	ホテルグリーンパーク津
岩手県	6/27(土)	マリオス 盛岡地域交流センター	滋賀県	7/11(土)	都ホテル京都八条
宮城県	7/4(土)	仙台ガーデンパレス	京都府	7/11(土)	都ホテル京都八条
秋田県	6/28(日)	パーティーギャラリーイヤタカ	大阪府	6/13(土)	あべのハルカス
山形県	7/5(日)	ホテルメトロポリタン山形	奈良県	6/13(土)	あべのハルカス
福島県	7/18(土)	郡山ビューホテルアネックス	兵庫県	7/4(土)	生田神社会館
茨城県	6/28(日)	L'AUBE Kasumigaura	和歌山県	6/14(日)	ホテルグランヴィア和歌山
栃木県	6/21(日)	サンプラザ	鳥取県	7/25(土)	ホテルセントパレス倉吉
群馬県	7/19(日)	ホテルメトロポリタン高崎	島根県	7/26(日)	ART PARK HOTEL
埼玉県	5/24(日)	国学院大学　渋谷キャンパス	岡山県	7/12(日)	ピュアリティまきび
千葉県	6/7(日)	国学院大学　渋谷キャンパス	広島県	7/11(土)	広島ガーデンパレス
東京都第一	5/31(日)	国学院大学　渋谷キャンパス	山口県	6/13(土)	かめ福オンプレイス
東京都第二	5/31(日)	国学院大学　渋谷キャンパス	徳島県	7/25(土)	ホテルグランドパレス徳島
東京都第三	6/21(日)	国学院大学　渋谷キャンパス	香川県	7/5(日)	リーガホテルゼスト高松
東京都第四	6/21(日)	国学院大学　渋谷キャンパス	愛媛県	5/31(日)	ホテルマイステイズ松山
神奈川県	7/5(日)	国学院大学　渋谷キャンパス	高知県	7/26(日)	高知サンライズホテル
新潟県	6/27(土)	アートホテル新潟駅前	福岡県	6/14(日)	ホテルクリオコート博多
富山県	7/18(土)	ANAクラウンプラザホテル富山	佐賀県	6/7(日)	ホテルグランデはがくれ
石川県	7/19(日)	ホテル金沢	長崎県	6/6(土)	長崎マリオットホテル
福井県	7/12(日)	福井フェニックスホテル	熊本県	5/30(土)	KKRホテル熊本
山梨県	6/27(土)	シャトレーゼホテル談露館	大分県	7/26(日)	レンブラントホテル大分
長野県東北信	7/18(土)	シャトレーゼホテル長野	宮崎県	7/11(土)	ホテルメリージュ
長野県中南信	6/28(日)	中信会館ベルヴィホール	鹿児島県	5/31(日)	ホテル・レクストン鹿児島
岐阜県	7/11(土)	TKPガーデンシティPREMIUM名古屋駅前	沖縄県	6/13(土)	パシフィックホテル沖縄

メキシコの高校生が本学を訪問 国際交流と教育理解を深める

コレヒオ・ウィリアムス・メキシコ高校(メキシコ)の生徒と教職員20人が、4月7日に渋谷キャンパスを訪問した。

同校は国際バカロレア教育を導入しており、今回の日本訪問はそのプログラムの一環として実施された。

一行はまず企画課の職員から本学の歴史や学部学科の概要について説明を受け、参加者は日本の大学教育への理解を深めた。その後、入学課の職員による案内で校内を見学し、博物館で学芸員から解説をうけながら展示も鑑賞した**=写真**。

本学では、令和5年から文部科学省の日本留学促進事業を受託する筑波大学の「日本留学促進プロジェクト(南米地域)」に参加し、南米地域での学生募集活動を展開している。今回の訪問はその活動の一環であり、今後は国際交流のさらなる発展が期待される。

GO GLOBAL WEEKを開催

海外留学を希望する在学生へ向けた説明会や個別相談を行う「GO GLOBAL WEEK ～留学を考える1週間～」が4月13日から17日にかけて渋谷キャンパスで開催された。

15日には、国際交流課の職員による留学についての説明会が実施され、留学の全体概要や、留学に行くために必要な条件、留学先での生活などについて詳細な説明が行われた**=写真**。

期間中は、JSAF(日本スタディ・アブロード・ファンデーション)による説明会や個別相談会も実施されたほか、交換留学生たちがそれぞれの母語を教えるミニ言語セッションも開催され、多くの学生が参加した。

神道六部会による稽古始奉告祭が斎行

神道六部会による稽古始奉告祭が、4月25日に渋谷キャンパス祭式教室で執り行われた。神道六部会とは青葉雅楽会(雅楽)、みすゞ会(神楽舞)、瑞玉會(祭式)、萠黄會(衣紋着装)、禮法研究會(礼法)、若木睦(神輿)の、6つの神道系サークルからなり、それぞれ日々修練を重ねて、学内外のお祭りの奉仕等の活動にいそしんでいる。本学の恒例行事となっている観月祭も神道六部会に所属する学生たちが中心となり、斎行している。

年度の開始に当たっての稽古始奉告祭には多くの新入生が参加。設えの準備から着装まで、すべてが先輩たちの手によるお祭りに、新入生たちは姿勢を正して先輩たちの所作に見入っていた。

若木育成会 本部役員会を開催

在学生の保証人(父母ら)で組織される若木育成会は4月18日、渋谷キャンパスで本部役員会を開催した。令和7年度の事業報告および決算、令和8年度の事業計画や予算、会長・副会長候補者の選出などが審議・承認された。

会議後は、有栖川宮記念ホールで懇親会が開かれた。若木育成会三役や各学年幹事らと、学内幹事が積極的に情報交換や交流を行った。

育成会では、5月下旬から7月下旬にかけて、全国56の支部で「支部の集い」を開催する。本学の教職員が大学の現状報告や、学修状況に関する個別面談を実施する予定。開催日程は**左表**の通り。

インフォダイジェスト

…在学生 …保証人 …卒業生 …一般 …受験生
内内容 日日にち 時時間 場場所 対対象 定定員 料料金 申申し込み 問問い合わせ

大学からのお知らせ

災害で被害に遭われた皆さまへ

内 令和8年4月22日に岩手県大槌町で発生した林野火災に伴う災害で、災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人(父母等)と相談のうえ下記の大学各窓口までご相談ください。適用対象地域は本学HPや内閣府防災HPでご確認ください。

問 ▶学生生活課(渋谷 ☎03・5466・0145、たまプラーザ ☎045・904・7714)
▶大学院事務課(☎03・5466・0142)

証明書発行にかかる料金の改定について

内 国学院大学では、学生および院友(本学卒業生)の利便性向上を目的として、令和7年9月1日から、これまで学内でのみ発行可能であった申請書類や証明書の一部についてオンライン申請やコンビニ発行が可能となる証明書発行システムへ移行いたしました。これに伴い、**令和8年4月1日から証明書発行にかかる料金を改定いたしました。**利用者の皆さまにはご負担をお掛けいたしますが、何とぞご理解のほどよろしくお願いいたします。改定料金の詳細については、大学HP(**二次元コード**)をご確認ください。

問 ▶教務課(渋谷 ☎03・5466・0137、たまプラーザ ☎045・904・7721)
▶学生生活課(渋谷 ☎03・5466・0145、たまプラーザ ☎045・904・7714)
▶大学院事務課(☎03・5466・0142)

「指定寄付金」ご協力のお願い

内 学校法人国学院大学では、私学としての公共性と独自性のある教育研究体制を確立するため、広くご寄付を募っています。寄付の種類は「学生・生徒等の奨学基金」「学生・生徒等の活動支援」「教育・研究振興支援」「施設・設備充実支援」の四つに加え、学生の課外活動(スポーツ強化部会など)を支援するための「課外活動支援」や「メッセージ募金」を設けています。「メッセージ募金」は、スポーツなどの課外活動に熱心に取り組む学生に向けて、HP上からメッセージを直接投稿してもらう仕組みです。ワンコイン(500円)から寄付が可能で、メッセージはそのまま専用HPで公開されます(匿名可)。

申 専用用紙またはインターネットでのクレジットカード決済が可能です。

問 総務課(☎03・5466・0111)

※本法人への指定寄付金は税制上の優遇措置を受けることができます。寄付に関する情報は専用HP(https//kifu.kokugakuin.ac.jp)で閲覧できます。

本学が参加予定の進学相談会(5月下旬〜6月)

内 各地で開催される進学相談会に参加を予定しています。入学試験制度や本学の学びに関する最新情報をもとに、進学に関する疑問や質問に直接お答えします。本学への進学をお考えの受験生、保護者の方はぜひご来場ください。進学相談会の最新情報は本学HP(**二次元コード**)からご確認ください。

日・時・場 **下表**参照

問 入学課(☎03・5466・0141)

イベント

令和8年度 オンライン公開講座「日本の弔い－東日本編－」

て、地域ごとの特色を意識しながら、その多様性に目を向けていきます。お墓や仏壇など、私たちは目には見えない〈死者〉をさまざまな媒介物によって表現し、可視化することで、そこに生と死の境界を超えたコミュニケーションを成立させてきました。今回は東日本に焦点を当て、各地域で営まれてきた弔いの諸相について、当該地域や文化を研究してきた講師にお話しいただきます。

日 6月12日(金)〜2027年1月4日(月)

料 11,000円(全5回)

申 令和8年6月5日(金)締め切り。専用HP(**二次元コード**)から申し込み。

問 エクステンションセンター(☎03・5466・0270、✉jigyou@kokugakuin.ac.jp)

令和8年度 進学相談会参加予定一覧(〜6月)

都道府県	都市	会場名	開催日	時間
東京	水道橋	東京ドームシティ	5月22日(金)	13:00〜18:00
神奈川	横浜	横浜新都市ホール(横浜そごう)	5月23日(土)	11:30〜18:00
静岡	浜松	アクトシティ浜松	5月23日(土)	14:00〜17:30
新潟	新潟	朱鷺メッセ	5月24日(日)	11:00〜16:00
長野	長野	ビッグハット	5月24日(日)	13:00〜17:00
静岡	静岡	ツインメッセ静岡	5月24日(日)	11:00〜16:00
東京	秋葉原	ベルサール秋葉原 ※高校教員対象	5月26日(火)	13:00〜18:00
埼玉	さいたま	GMOアリーナさいたま	5月30日(土)	12:00〜16:00
群馬	高崎	ビエント高崎	5月31日(日)	11:00〜16:00
茨城	水戸	水戸プラザホテル	6月 1日(月)	13:30〜17:30
沖縄	那覇	沖縄県立武道館(予定)	6月 3日(水)	14:30〜18:30
東京	池袋	サンシャインシティ	6月 6日(土)	11:00〜17:30
長野	松本	やまびこドーム	6月11日(木)	14:50〜18:00
静岡	浜松	アクトシティ浜松	6月13日(土)	13:00〜17:00
愛知	名古屋	名古屋サンスカイルーム	6月13日(土)	10:00〜17:00
千葉	幕張	幕張メッセ	6月14日(日)	11:00〜16:00
山梨	甲府	アイメッセ山梨	6月14日(日)	11:00〜16:00
広島	広島	広島国際会議場	6月14日(日)	10:00〜17:00
埼玉	川越	ウェスタ川越	6月19日(金)	14:00〜18:00
長野	長野	ターミナル会館	6月20日(土)	14:00〜17:30
福岡	博多	TKP エルガーラホール	6月20日(土)	10:00〜17:00
東京	池袋	サンシャインシティ	6月21日(日)	11:00〜16:00
大阪	梅田	梅田センタービル	6月21日(日)	10:00〜17:00
北海道	札幌	TKP 札幌駅カンファレンスセンター	6月28日(日)	9:30〜16:30
宮城	仙台	仙台国際センター	6月28日(日)	12:00〜17:30

おやごころこのおもい

第31回

名誉教授 **新富 康央**

しんとみ・やすひさ
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

「知の扉」をたたこう

「大きく打てば大きく響く、小さく打てば小さく響く」

これは、坂本龍馬が西郷隆盛と初めて対面したとき、西郷を評して語った言葉です。西郷隆盛は、自分の打ち方によって、相手にそれ相応の反応をした英傑だったということのようです。

しかし、それはまた、大きく打つか、それとも小さく打つかなど、打ち手自身の主体性が問われることでもあります。

とりわけ新入生の皆さんには、どんどん先生方の「知の扉」をたたいてもらいたいと願います。

新年度が始まり、新たな一歩を踏み出して二か月が過ぎようとしている今、人生観、社会観を含め、そもそもなぜ学ぶのか、何を学ぼうとしているのか、否、何を学ぼうとして入学したのかなど、苦悶が始まっているのではないでしょうか。

かつて「五月病」という言葉が流布されていました。実は、五月は、何に対してもやる気が起きない、やる気が出ない無気力状態や、さらには通学への拒否反応が出てしまいがちなのです。

その原因は、二つに大別されます。

一つは、「習う」という知識の習得を目指す高校までの受動的な「学習」と、「修める」という知識・技能を自ら身につける主体的な学びが求められる大学での「学修」の違いに依る、「学び」の環境の変化に適応できない「適応障害」。

もう一つは、第一志望校入学を目指した学びから解放された結果の、いわゆる「燃え尽き症候群」。

今日、こうした「五月病」の対処法として、AIもあるでしょう。だが、それに比して優れているのは、本学の先生方の「知の扉」です。先生方の「知の扉」を直接かつ積極的にたたくことです。

先生方は、大きく打てば大きく返し、小さく打てば小さく返してくれます。

國學院大學神殿前に設置されている、学業の中断を余儀なくされ、学徒出陣で亡くなった本学学生四百三十七人を慰霊する「学徒慰霊之碑」には、後輩たる学生さんに向けて、以下の激励の言葉が述べられています。

「この学び舎にいそみし人々にして昭和の戦ひの場にいでゆきて帰らざりしあまたの若き御霊をここに鎮め斎ひまつる

いまはみ心もなごみいまして静かなる世の後輩のすがしき学びのさまをみ眼もさやかに見まもりたまえ」

この碑の横には、戦没学徒を詠んだ國學院大學教授折口信夫こと歌人釈迢空の歌碑が並んでいます。大学での「学び」に行き詰まったとき、立ち寄るのもよいかもしれません。

「人おほく かへらざりけり 海やまに みちてきこえし 聲もかそけし」

近くて遠い？ 遠くて近い？ そんな親の気持ちや子どもの気持ちを一緒に考えませんか？ 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けします。
感想や新富名誉教授への質問、講演依頼などございましたら広報課までお寄せください。

K:DNA

2026 5

K:DNA――創立144年を迎えた国学院大学の遺伝子…個人・個性を尊重する校風　若いエネルギーが未来を変える

柔道部

吉村選手 トルコジュニア国際柔道大会で優勝

トルコジュニア国際柔道大会（トルコ・イスタンブール）が5月2日、3日に開催され、国学院大学柔道部から男子60kg級で吉村悠之介選手（健体2）、66kg級で大柿将馬選手（法2）、81kg級で小畑永吉選手（健体1）の3人が日本代表として出場し、吉村選手が優勝を飾った。

本大会男子部門には24カ国から302人が参加。吉村選手は1回戦で地元トルコ代表選手に一本勝ちを決めて流れに乗ると、2回戦、3回戦でも一本勝ちで準々決勝へ進んだ。準々決勝では、ジョージア代表選手に一本背負投げで優勢勝ちし、続く準決勝でも背負投げで一本勝ちを決めた。決勝戦では、ウズベキスタン代表選手に袖釣り込み腰による一本勝ちで、見事優勝に輝いた。

―吉村選手コメント―

今回のトルコジュニア国際大会に日本代表として出場し、強いプレッシャーの中で試合に臨みました。優勝という結果を残すことができましたが、試合内容には納得しておらず、自分自身の課題を多く見つけることができました。

これからは国内大会でしっかりと結果を出しながら、シニアの舞台でも国際大会に出場できるよう、トレーニングと練習に取り組んでいきます。

男子60kg級で優勝した吉村選手

学生インタビュー

感謝と恩返しの思いを胸に、準硬式野球の素晴らしさを全国の球児に伝えたい

大滝快晴さん（法4=取材当時は3年）は、野球とともに成長してきた。成績が安定しなかった部をまとめ、3年生の時には全日本大学準硬式野球連盟の東日本地区選抜に選ばれると主将として東西対抗日本一決定戦甲子園大会に出場し、大会最優秀選手（MVP）を獲得した。大滝さんの成長の裏にある、汗と涙とパッションの日々について語ってもらった。

物心ついた時には野球に親しんでいたという大滝さん。小学校入学と同時に軟式の少年野球チームに参加。チームの中心選手で、勝っても負けても自分の責任だと考える、負けず嫌いで泣き虫な少年だった。中学生になって、県大会に向かってともに頑張る仲間の存在や、新潟県選抜での経験を通じて、自分の視野の狭さと周囲の技術力の高さを痛感し、チームプレーに目覚めていった。甲子園を目指し、古豪の新潟明訓高校へ進学。親元を離れての寮生活、初めての硬式野球、体づくりを進めている同級生たち―、戸惑いや心細さを感じながらも練習に励み、1年生の秋から先発メンバーに加わった。大滝さんを支えたのは、「自分にしかできないことがあるはずだ」という信念。負けず嫌いは、自分が自分であり続けるための努力に変わった。3年生でゲームキャプテンになると、まずは自分の行動で示すことの大切さを自覚。毎朝3時半に起床して4時から室内練習場で練習に打ち込み、夜も門限の9時半まで居残り練習を続けた。夏の県大会はベスト8で終わったが、大会後、監督の推薦で新潟県の優秀選手に選出され、努力の日々を監督が見ていてくれたことに、報われた思いで達成感を覚え、真剣勝負の野球はここで終えようという気持ちになった。

国学院大学入学時には気楽に野球をしたいと思っていたが、父親の勧めもあり、準硬式野球部の体験会に参加。一気に夢中になった。明訓高校出身とあって、先輩たちの期待も大きい。意気揚々と入部したものの、1年間で東都1部から3部まで降格した。野球をやめることも考えたが、「自分がもっと頑張ってチームを変えよう」と立ち上がる。2年生で副キャプテンとなり、「どんなゴロやフライでも全力疾走」をチームのルールとして試合に臨み、その結果、秋のリーグ戦では2部優勝を果たした。全員で涙を流し喜びを分かち合った瞬間、「野球の神様って本当にいるんだ」と胸がいっぱいになったという。

3年生ではキャプテンを務めたが、現実は甘くなかった。春のリーグ戦で開幕3連敗し、自分の弱さ、力不足を痛感して、部員を集めて頭を下げた。「みんなの力を貸してほしい。なんでも言ってくれ、僕は絶対に変わるから」と。仲間からは、「おまえ一人のチームじゃない。だけど、おまえだからついていっている」、「去年まで楽しそうに野球をしていたのに、いまは楽しそうに見えない」と言われた。その言葉で、野球を楽しむという原点を思い出した。その日を境にチームは上向き、秋のリーグ戦では2部で優勝を争うまでになったという。

その時期、第4回全日本大学準硬式野球連盟の東西対抗日本一決定戦甲子園大会の東日本地区選抜に選ばれ、主将を任された。2部の、しかも3年生が主将を務めるのは史上初。北海道から東海までの大学で構成される選抜チームをまとめるため、チームのルールを決めた。「全力疾走、パッション、感謝をもって闘うこと」。尽力してくれた多くの関係者と企業、そして支えてくれた家族への感謝の思いを伝えるためには、憧れの甲子園で本気で楽しんでいる姿を見てもらうことだという結論に行き着いた。4日間の大会期間中、大滝さんは、全ての時間を楽しみ、盛り上げた。試合には敗れ思うような活躍はできなかったが、大会MVPに選ばれた。

「準硬式野球からプロ野球に行く選手もいますし、僕よりうまい選手はいくらでもいます。でも、技術より大切なものを評価してもらえたのだと思います。それは、まわりを巻き込んでいくこと、感謝の思い、いつも笑顔でいること。信じてやってきたことは誰にも負けないと思っています」

卒業後は、郷里の胎内市に戻り、地域を盛り上げる仕事をしたいと語る。東京で生活した人間だからこそできることもあるはずだと、ここでも経験を生かそうとする意欲がある。泣き虫だった少年は、野球によって大きく成長し、多くの人たちの希望をつなぐ存在になっていく。